

# 概日生理学の新しい地平

日時：2018年7月14日（土）15:00～17:05

場所：北海道大学学術交流会館小講堂 011-706-2141

(札幌市北区北8条西5丁目、北大正門より入って左手)

バクテリアからヒトまで、地球上のほぼすべての生物は生物時計をもち、様々な機能に約24時間のリズムをつくりだしています。一方、ヒトでは不規則な生活リズムや睡眠不足が生活習慣病、うつ病などの誘因となっています。生物時計研究の進展は目覚ましく、分子レベルで生物が時を刻む仕組みが次々と明らかにされ、その基本的なメカニズムが、生物種を問わず驚くほど類似していることも分かってきました。本シンポジウムでは、シアノバクテリアの時を刻むタンパク質の仕組みから、ヒト睡眠覚醒リズムの大規模調査研究まで、最先端の研究成果を講演していただきます。シンポジウムを通じて、生物のリズムと自然や社会環境のサイクルとの関わりを見つめなおし、日々の生活や教育に活かしていただければ幸いです。皆様の参加をお待ちします。

## プログラム

座長 近藤孝男（名古屋大学名誉教授）  
深田吉孝（東京大学教授）

- 15:00 概日時計の今日的意義  
本間研一（北海道大学名誉教授）
- 15:05-15:35 藍藻における概日周期と温度補償性の分子科学  
秋山修志（自然科学機構分子科学研究所教授）
- 15:35-16:05 ほ乳類生物時計の振動体ネットワーク  
本間さと（北海道大学客員教授）
- 16:05-16:35 ほ乳類中枢時計神経ネットワークの遺伝学的解析  
三枝理博（金沢大学教授）
- 16:35-17:00 実社会における大規模睡眠研究プロジェクト  
Till Roenneberg（ミュンヘン大学教授）
- 17:05 シンポジウム総括  
近藤孝男（名古屋大学名誉教授）

主催：日本学術会議基礎生物学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同生物リズム分科会、アショフ・ホンマ記念財団

共催：日本時間生物学会

後援：日本生命科学アカデミー

連絡先：アショフ・ホンマ記念財団  
tel：011-520-2345